人形浄瑠璃

文楽

京都公演

Program A

二人三番叟（ににんさんばそう）

絵本太功記（えほんたいこうき）

夕顔棚（ゆうがおたな）の段

尼ケ崎（あまがさき）の段

Program B

近頃河原の達引（ちかごろかわらのたてひき）

四条河原（しじょうがわら）の段

堀川猿廻（ほりかわさるまわ）しの段

2025年

3月15日[土]・16日[日]

Program A 11:00～　Program B 11:00～

Program B 15:00～　Program A 15:00～

京都府立文化芸術会館ホール

[602-0858　京都市上京区河原町通広小路下ル／市バス「府立医大病院前」下車スグ前]

入場料　一般5,000円[友4,500円]／学生3,000円[友2,500円]

A・Bセット券※前売のみ　一般8,000円[友7,500円]／学生4,500円[友4,000円]

●友は文化芸術会館友の会割引料金※前売のみ　●セット券・友の会割引は文化芸術会館のみ取り扱い

●全席指定　●日時指定
●当日は各500円増
●学生券は大学生以下※要学生証

写真　青木信二

チケット取扱所
- ●京都府立文化芸術会館 ☎075-222-1046　窓口購入・電話予約（要来館でのご精算）のみ／代金引換郵便は友の会会員様のみ
- ●チケットぴあ　https://t.pia.jp/（Pコード:529-978）　セブン-イレブン各店内のマルチコピー機にてお受け取り・直接購入
- ●ローソンチケット　https://l-tike.com/（Lコード:52131）　ローソン／ミニストップ各店内のLoppiでお受け取り・直接購入

前売券発売日
12月8日(日)10時～

友の会先行発売
11月23日(土)10時～

お問合せ／京都府立文化芸術会館　☎(075)222-1046【受付時間 9時～18時】

文化庁

助成　文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)）／独立行政法人 日本芸術文化振興会／朝日新聞文化財団

主催　指定管理者 創・(公財)文楽協会

2003.11 文楽 BUNRAKU ユネスコ無形文化遺産 Intangible Cultural Heritage

二人三番叟（ににんさんばそう）

能で特に神聖視される『翁』を義太夫節に移し、慶事に上演される『寿式三番叟』。その中から、二人の三番叟の舞を独立させました。義太夫節ならではの力強い響き。人形の躍動的な舞。足遣いの踏む足拍子と三番叟が振る鈴の音も心地よい、熱気あふれる舞台です。

絵本太功記（えほんたいこうき）

夕顔棚の段
尼ケ崎の段

明智光秀が京都の本能寺に宿泊中の織田信長を滅ぼした「本能寺の変」（一五八二）を題材とする時代物で、寛政11年（一七九九）、大坂の道頓堀若太夫芝居で初演。当時刊行中のよみほん読本『絵本太閤記』の人気を受けて、近松やなぎほかが合作し、発端に、1日を1段として、光秀が謀反を決意する6月1日から命を落とす13日までの13段が続く構成になっています。

忠臣光秀は、〝鬼の再来〟と恐れられる主君春長の悪逆を諫めて、度重なる屈辱的な仕打ちを受け、6月2日、ついに本能寺を襲撃。光秀にとっては万民を救うための天誅でしたが、母さつきは、主殺しなど断じて許せず、6日、逆賊との同居は汚らわしいと、ひとり京を去り、尼ケ崎へ。

謀反を知り、急遽、備中から軍勢を率いて都へと引き返す久吉。尼ケ崎の近くで待ち受ける光秀勢。10日、さつきのもとを訪れたのは、光秀の妻操と息子十次郎、そのいいなずけ許嫁の初菊。そして、宿を乞う旅僧も。その正体を久吉と察し、様子をうかがう光秀に気づく老母。

討ち死覚悟の十次郎が、悲しみを胸に初菊との祝言をあげ、出陣したあと、旅僧は、さつきに勧められ、風呂へ。外から竹槍で突く光秀。ところが、中にいたのは母。主殺しの罪深さを思い知らせるため、わざと息子の手にかかったのです。そこへ味方の敗北を告げに戻った十次郎は、絶命寸前。一夜も添うことなく夫と死に別れる初菊、我が子を失う操、二人の慟哭…。光秀は、涙も束の間、天王山での決戦を久吉と約束するのでした。

兵庫県尼崎市を舞台とする「尼ケ崎」は、天下のための挙兵が家族に悲劇をもたらした光秀の苦悩と悲しみが胸に迫る、全編の山場です。

プログラムA

3月15日[土]11時00分～／16日[日]15時00分～　上演時間 2時間25分

解説（あらすじを中心に）　豊竹睦太夫

二人三番叟

三番叟　豊竹靖太夫
三番叟　竹本碩太夫
竹澤團吾
鶴澤友之助
鶴澤燕二郎
鶴澤藤之亮

（人形役割）
三番叟　桐竹紋吉
三番叟　吉田玉誉

絵本太功記

夕顔棚の段
豊竹睦太夫
竹澤團七

尼ケ崎の段
切　竹本千歳太夫
豊澤富助
後　豊竹靖太夫
野澤勝平

（人形役割）
母さつき　桐竹勘壽
妻操　吉田簑二郎
嫁初菊　桐竹紋臣
旅僧実は真柴久吉　吉田玉助
武智光秀　吉田玉男
武智十次郎　吉田一輔
百姓　大ぜい
軍兵　大ぜい

望月太明藏社中

近頃河原の達引（ちかごろかわらのたてひき）

四条河原の段
堀川猿廻しの段

京の二条河原での心中（一七〇二？）で知られたおしゅん・伝兵衛に、四条河原での刃傷沙汰と、貧しい猿廻しが親孝行で褒賞されたことを絡めたとされる、三巻の世話物で、眼目は中の巻の「堀川猿廻し」。気はやさしくて臆病者、文字は読めなくても誠実に生きる猿廻しの与次郎を中心に、その日暮らしの貧しさの中、互いに思いやる家族と、その別れを描いています。天明2年（一七八二）、江戸の外記座で初演され、好評を博したこの段は、大坂で上演されたある時代物の猿廻しのくだりをもとにしたものですが、作者、成立等、作品全体についての確かなことはよくわかりません。

大名の御用を勤める伝兵衛は、相思相愛の祇園の遊女おしゅんに横恋慕した出入先の侍を殺してしまい、お尋ね者に。

おしゅんの兄、猿廻しの与次郎は、目の見えない、病身の老母を大切に世話する孝行息子。伝兵衛との関係で店からひそかに実家に戻された妹のことも、心配でなりません。母もまた同じ思い。伝兵衛が心中しに来たら…。二人は、おしゅんを死なせまいと、伝兵衛への離縁状を書かせ、一安心。

その夜、現れた伝兵衛に妹の手紙を突きつける与次郎。ところが、それは母と兄に宛てた書置きでした。あくまでも伝兵衛と死ぬ覚悟のおしゅん。残された家族の嘆きを思い、一人で死のうとする伝兵衛。けれども、大事な夫を見捨てては、女の道が立たないと、おしゅんは聞き入れません。

その思いに心動かされ、母は娘を伝兵衛と行かせることに。与次郎はめでたい猿廻しで二人を送り出すのでした。

「そりゃ聞こえませぬ伝兵衛さん」に始まるおしゅんのクドキや、悲しみの漂う猿廻し（華やかな旋律に乗せて、人形遣いが左右の手で一体ずつ猿を遣います）で有名な、人気演目です。

プログラムB

3月15日[土]15時00分～／16日[日]11時00分～　上演時間 2時間15分

解説（あらすじを中心に）　竹本織太夫

近頃河原の達引

四条河原の段
伝兵衛　豊竹睦太夫
官左衛門　豊竹咲寿太夫
勘蔵　竹本織栄太夫
久八　竹本碩太夫
鶴澤清丈

堀川猿廻しの段
前　竹本織太夫
鶴澤藤蔵
ツレ　鶴澤友之助
後　豊竹呂勢太夫
鶴澤燕三
ツレ　鶴澤燕二郎

（人形役割）
横渕官左衛門　桐竹紋秀
仲買勘蔵　吉田玉彦
井筒屋伝兵衛　吉田玉佳
廻しの久八　吉田玉翔
稽古娘おつる　吉田和馬
与次郎の母　吉田文昇
猿廻し与次郎　吉田玉也
娘おしゅん　吉田和生
駕籠屋　大ぜい

望月太明藏社中

◎A・B両プログラム共、字幕表記がございます。
◎出演者の急病やその他やむを得ない事情により、代約もしくは演目を変更して上演する場合がございます。あらかじめご了承ください。

関連企画　会場／京都府立文化芸術会館ホール

文楽 鑑賞教室

［上演時間75分※休憩なし］

文楽鑑賞教室は、解説とともに文楽屈指の名作を上演いたします。
世界に類をみない日本独自の芸能を一層深くご理解いただく格好の機会です。
上演時間も短く、初めてのお客様にも最適で、また、お知り合いを気軽に誘える、
鑑賞しやすい構成となっています。この機会にぜひご覧ください。

解説「太夫と三味線について」
「人形遣いについて」

実演「伊達娘恋緋鹿子（だてむすめこいのひがのこ）」火の見櫓の段（ひのみやぐらのだん）

詳細はこちらから［公演チラシ］

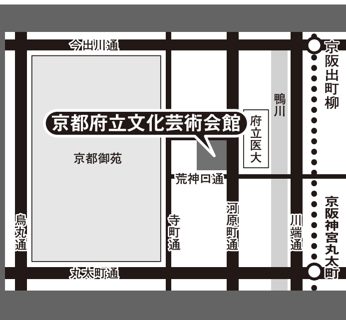
2025年3月14日(金) 15時開演〈30分前開場〉
一般2,500円［友2,000円］
学生・教職員1,000円
全自由席／税込 当日各500円増

文化芸術会館友の会 入会募集中!

年会費1,500円　随時ご入会受付中

ご入会いただくと、「文楽京都公演」など、会館主催の公演や貸館公演のチケットの割引優待や先行予約などのお得な特典が盛りだくさん。
この機会をご利用いただき、是非ご入会ください。

お問合せ・お申込は文化芸術会館（☎075-222-1046）まで



京都府立文化芸術会館
京都市上京区河原町広小路下ル　☎075-222-1046（9時～18時）

●【JR京都駅から】市バス4系統・7系統・205系統
【四条河原町から】市バス3系統・4系統・7系統・205系統
【三条京阪から】市バス37系統・59系統
【京都バス】21系統・41系統にて京阪「出町柳」駅経由
※いずれも「府立医大病院前」バス停下車スグ前
●京阪電車／「出町柳」駅もしくは「神宮丸太町」駅から徒歩約12分
※駐車スペース（有料150円／30分）に限りがございますので公共交通機関をご利用いただきますようお願いします。